

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400129	事業の開始年月日	平成19年6月1日	
		指定年月日	平成19年6月1日	
法人名	株式会社 ウイズネット			
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜宮沢 3			
所在地	(246-0038) 神奈川県横浜市瀬谷区宮沢4-28-8			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月13日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1493400129&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの生活スタイルを大切に、ご利用者自身のペースで生活している。また、ADLの低下を予防する為に、体操のDVDを購入し、スタッフと一緒にこなしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ｸﾞﾞ ｽﾌﾞﾌﾞ 3階		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価機関 評価決定日	平成22年4月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは相鉄いずみ野線いずみ野駅からバスで8分、バス停から徒歩5分の住宅地と畑に囲まれた静かな環境にあります。</p> <p>建物はコンクリート打ちっばなしのしゃれたレストラン風で、広い敷地はゆったりして、8月のホーム納涼祭では地域に開放されました。</p> <p>建物内はバリアフリーで木目を活かした落ち着いた造りで、リビングは広々としてお雛様や利用者の作品、行事の写真が飾られて家庭的な雰囲気です。浴室にはリフトも備えてあり利用者は隔日に入浴を楽しんでいます。各居室には、洗面所と鏡の設備があり、洗面や食後の口腔ケアは居室で行なっています。扉はお年寄りにも使いやすい引き戸となっています。</p> <p>運営法人は64か所のグループホームや介護事業など広く運営しており、サービス面では認知症ケアに即した独自のアセスメント(課題分析)やケアプラン、居室担当制、安全対策、防火対策など徹底したリスクマネジメント、毎月発行される機関紙や法人代表者に直言出来る「提案ポスト」、年6回開催される家族会などを通じて家族や利用者の声を大切に運営されています。</p> <p>楽しみ事への支援では、お花見会、七夕、納涼祭、クリスマス会などホーム内外の催しをレクリエーション企画として行なっています。ADL(日常生活動作)低下予防のため、毎日DVDに合わせて体操を行っています。法人内でシニアセラピー(顔面療法・足裏療法)を月2回取り入れ常時5~6名の方が利用しています。そのような環境の中、利用者を主体としたケアがうかがえます。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜宮沢 3
ユニット名	1階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在のホーム理念は、ホーム内限定の理念あり、来年度に向けて地域密着型サービスに沿った理念を作り上げていきたい。	ホーム理念は設立時に職員間で話し合っ「愛と笑顔と明るさ」を掲げています。職員は理念に沿って明るく笑顔を大切にケアにあたっています。今後は地域との関係も理念に盛り込んでいきたい考えでいます。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、地域との関係上出来ていない。来年度に向けて地域とのつながりを持てるように努力していきたい。	ホーム入り口の清掃時などには近隣の方と積極的に挨拶を交わしています。行事の際にハーモニカ&ギターの演奏、落語、民謡等のボランティアの訪問を通じた交流もあります。昨年8月のホーム納涼祭では、お誘いのチラシを150枚配り近隣の方の訪問もありました。	除々に地域に向けた働き掛けは、はじまっていますが、職員協働によるさらなる取り組みが期待されます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、出来ていないが、今後行なっていきたい。	/	
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や、地域ケアプラザの方からの意見をホームへ持ち帰り、様々な取組みを行なっている。	宮沢地区町内会長、下瀬谷地区民生委員、ケアプラザ職員、利用者、家族が参加して3か月毎、法人内3事業所と共催しています。ホームから活動報告を行い、メンバーより職員の退職回避に向けた助言がありました。管理者は職員の退職防止の為の対策を施しています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状、行なえていないが、今後、行なっていきたい。	瀬谷区役所より依頼を受けてキャラバンメイト研修生3名の受け入れを行っています。年2回の集団指導への出席や利用者との関わりを通じて交流連携に努めています。管理者はさらに連携を深めて行きたい意向でいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」を各フロアで、スタッフが目につく所に掲示し、実践している。	法人内の「身体拘束廃止委員会」に参加して「身体拘束ゼロ」を掲げ、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。外出したい素振り等がある場合は庭のベンチでの日光浴に誘ったり、近くの日向山下原公園やホームセンターなどの買い物に出かけて納得してもらっています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士がお互いに声をかけ合い、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状行なえていないが今後、外部研修などへ積極的に参加し、習得内容をスタッフへフィードバックしていくなどの取り組みをしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、契約書の内容を十分に説明した上で、ご家族より、疑問点などをお聞きし、回答した上で、ご理解を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を2カ月に1度のペースで開催し、ご家族の意見を聞き、運営に反映できる場を設けている。	玄関に法人代表者直結の「提案ポスト」が設置されています。重要事項説明書にホーム内外の苦情相談機関が明示されています。職員は年6回の家族会開催時や家族の来訪時を通じて意見・要望の汲み取りに努めています。苦情・要望があった場合には即刻対応を心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ない、運営に反映させている。	管理者はスタッフ会議や個人面接で、職員の意見要望を汲み取っています。希望休への配慮や残業のない職場環境づくりに努めています。職員は物品管理や環境整備など役割を持っています。その他にもレクリエーション企画などを通じた意見もホーム運営に活かされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行った際、スタッフより要望を聞き、スタッフ一人ひとりが働きやすい環境を作っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談の際に、スタッフより「やりたい事」を聞き、それを実践出来るように、サポートを行なっている他、スタッフ一人ひとりに役割を持たせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業他社との交流は現状出来ていないが、今後行なっていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成する段階でご本人からの要望を聞き、それをプランに反映させ、プランに沿ったケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や、本プラン作成時に、ご家族との面談をきちんと行ない、関係作りを行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントに沿って対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「無理のない範囲での家事活動」へ参加し、スタッフとの信頼関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「一言通信」を送り、情報を共有している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの了解を頂いた上で、入居前に親交のあった方に面会に来て頂いている。	居室担当制を取ってアセスメント(課題分析)も担当しています。友人、知人などの面会は家族に相談した上で受け入れています。同窓会への参加支援や家族支援で墓参りに行かれる方もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察をし、スタッフが仲介して会話を出来るだけ成立させるようにする。また、会話の成立しない利用者には、スタッフが常に声かけし、関わる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的の手紙などを出し、必要に応じて支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中からや、ご家族からの情報等で、把握に努めている。	日頃のケアの場面で居室担当が中心となって一人ひとりの希望、要望を聞き取り、申し送りノートやケース記録で共有しています。把握困難な方の場合は家族から聞いたり、表情やしぐさから汲み取っています。利用者の希望する生活に向けた記録を心がけています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実帳時や、入居後のご家族の面会時などに、情報交流しながら把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	6か月毎のアセスメントや、3か月毎のモニタリングを実施。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフとカンファレンス時などに意見を聞き、その結果を閲覧出来るようにしている。	利用者や家族の希望・要望も聞き取り、かかりつけ医などの意見も入れながらカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。アセスメントは3～6か月毎、3か月毎モニタリングを行っています。「ケアプラン作成予定表」等によりチーム内で共有されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し、必要に応じて、詳細に記録を取り、それをケアプランに反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行なえていないが、今後行なえるように、柔軟に対応していきたい。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行なえていないが、今後行なえるように、柔軟に対応していきたい。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	提携医療機関の往診の他、利用者本人やご家族の意向に沿って、外部受信にご家族対応にて行かれている。	基本的に家族や利用者の希望のかかりつけ医となっています。提携医療機関の往診も受けられます。家族支援で入居前からのかかりつけ医に受診されている方もいます。受診時はバイタルチェック表や手紙等により医師と連携しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回の看護職員出勤日に、利用者の個々の様子を報告し、必要に応じて医師に連絡をとっている。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は、介護サマリーの他、必要に応じて資料を提供している他、退院時には、看護サマリーの他、必要な情報を提供頂いている。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	状況に応じて情報交換の話し合いの場を持ち、必要に応じて医師等に報告している。	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を交わしています。重度化した場合には往診医と職員、家族でその都度話し合いを行う手はずになっています。管理者や看護師はそれぞれ法人内のターミナルケアの研修を受講しており、スタッフ会議等で共有しています。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	マニュアルを作成し、周知徹底させている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	年2回避難訓練を行なっているが、今後、地域の方にも参加して頂けるように、現在、検討中。	防災マニュアル、緊急時連絡網、備蓄が整備されています。11月に消防署の立ち会いで避難訓練を行っています。3月にも訓練を計画しています。管理者は運営推進会議を通じて有事の協力関係の要請を行っています。平成22年度中にスプリンクラー設置も決まっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	動作一つひとつを、解りやすくきちんと説明する。名前を呼ぶ時には、「～さん」と呼ぶ。	全職員と、雇用契約で個人情報に関わる誓約を結んでいます。個人情報は事務室内の鍵のかかる場所に保管されており、パソコンはパスワード管理、個人情報に関わる書類はシュレッダー処理が徹底しています。利用者への対応もさりげなく自然です。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しませんか?」と話しかけ、本人の意向を伺うように対応している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活に支障のない範囲で就寝し、起床時は個別にて対応している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など、更衣する時の着衣の選択の他、個別に使いやすい化粧品を使用している。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら他の利用者との食事をしている他、下膳や食器拭きなどの家事援助を出来る範囲で参加頂いている。	業者から届けられた食材を1階で調理しています。利用者はテーブル拭き、お茶入れ、下膳等を担当しています。ミキサー食やトロミ食等の配慮もしています。各種行事食やお寿司などお楽しみメニューもあります。職員も同じテーブルで同じ食事を摂っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食部の栄養士が、栄養のバランスを考えた献立を作成している。嗜好に合わせた飲み物を準備している他、食事量・水分量の記録を行なっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携医療機関の歯科衛生士からのアドバイスの元、個別に行なっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った排泄ケアを行っていく。	記録を基に時間を見計らってトイレへ誘導しています。丁寧な排泄パターン把握と職員の情報共有によるトイレ誘導からオムツを外された方もあります。失敗時の声掛けはさりげなく行っています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探り、その方に合った予防策を実践し、必要に応じて、医師に相談し、下剤を検討する。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤を使用するなどして、楽しい入浴を心がけている他、気が合う入居者同士も行なっている。	希望があれば毎日でも入浴できます。機械浴も可能です。入浴拒否のある方にも機会を捉え、抵抗を感じにくい足浴からなど工夫しています。入浴剤を使い、寛いでもらっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用してもらったり、「仏様にお参りして寝る」「本を読んで寝る」「テレビをみながら寝る」などのリズムや習慣の尊重。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを閲覧し、把握している。また、気になる事は、医師等に報告・相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割を大切にしている他、趣味(手芸等)の再現の場を提供している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行なえていないが、定期的に外出レクとして外出の機会を設けている。	お花見など季節ごとのレクリエーションや、近隣公園や商店への散歩、建物外に置いたベンチでの外気浴をしています。入浴時間帯を広げる事により外出の機会を増やす工夫を始めたところです。	日常的な外出だけでなく、家族の協力を得ながらの個別外出への工夫もその方らしい生活への配慮として有効です。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの意向もあり、所持は行なっていない。必要に応じて預かり金にて対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、行なっていない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾り付けを行なっている。また、フロアや居室の温度管理については、利用者の様子をみながら随時、対応している。	クッションフロアの広々としたリビングにはお雛様が置かれ、壁には利用者の作品や行事の折の写真、食卓には花が飾られています。掃除の時は窓も開け換気を心がけています。テレビの音はご利用者の状況により調節しています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への自由な出入りと、自由に他の利用者の居室への訪問を勧めている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やソファ、テレビ等、使い慣れた物を、入居時などにお持ち頂いている。	ベッド、寝具、カーテン、整理ダンス、ロッカー、鏡、洗面台、エアコンが完備した居室は お好みで ソファや仏壇、テレビ、時計が持ち込まれ、写真など、愛着のある品が置かれていました。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所への手すりの設置の他、車いす用トイレの設置。また、生活上、支障のない範囲での貼り紙の設置。		

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜宮沢 3
ユニット名	2階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在のホーム理念は、ホーム内限定の理念あり、来年度に向けて地域密着型サービスに沿った理念を作り上げていきたい。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、地域の関係上出来ていない。来年度に向けて地域とのつながりを持てるように努力していきたい。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、出来ていないが、今後行なっていきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や、地域ケアプラザの方からの意見をホームへ持ち帰り、様々な取組みを行なっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状、行なえていないが、今後、行なっていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」を各フロアで、スタッフが目につく所に掲示し、実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士がお互いに声をかけ合い、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状行なえていないが今後、外部研修などへ積極的に参加し、習得内容をスタッフへフィードバックしていくなどの取り組みをしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、契約書の内容を十分に説明した上で、ご家族より、疑問点などをお聞きし、回答した上で、ご理解を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を2カ月に1度のペースで開催し、ご家族の意見を聞き、運営に反映できる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ない、運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行った際、スタッフより要望を聞き、スタッフ一人ひとりが働きやすい環境を作っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談の際に、スタッフより「やりたい事」を聞き、それを実践出来るように、サポートを行なっている他、スタッフ一人ひとりに役割を持たせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業他社との交流は現状出来ていないが、今後行なっていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成する段階でご本人からの要望を聞き、それをプランに反映させ、プランに沿ったケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や、本プラン作成時に、ご家族との面談をきちんと行ない、関係作りを行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントに沿って対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「無理のない範囲での家事活動」へ参加し、スタッフとの信頼関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「一言通信」を送り、情報を共有している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの了解を頂いた上で、入居前に親交のあった方に面会に来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察をし、スタッフが仲介して会話を出来るだけ成立させるようにする。また、会話の成立しない利用者には、スタッフが常に声かけし、関わる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的の手紙などを出し、必要に応じて支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中からや、ご家族からの情報等で、把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実帳時や、入居後のご家族の面会時などに、情報交流しながら把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	6か月毎のアセスメントや、3か月毎のモニタリングを実施。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフとカンファレンス時などに意見を聞き、その結果を閲覧出来るようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し、必要に応じて、詳細に記録を取り、それをケアプランに反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行なえていないが、今後行なえるように、柔軟に対応していきたい。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行なえていないが、今後行なえるように、柔軟に対応していきたい。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の往診の他、利用者本人やご家族の意向に沿って、外部受信にご家族対応にて行われている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回の看護職員出勤日に、利用者の個々の様子を報告し、必要に応じて医師に連絡をとっている。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は、介護サマリーの他、必要に応じて資料を提供している他、退院時には、看護サマリーの他、必要な情報を提供頂いている。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	状況に応じて情報交換の話し合いの場を持ち、必要に応じて医師等に報告している。		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	マニュアルを作成し、周知徹底させている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	年2回避難訓練を行なっているが、今後、地域の方にも参加して頂けるように、現在、検討中。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	動作一つひとつを、解りやすくきちんと説明する。名前を呼ぶ時には、「～さん」と呼ぶ。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しませんか?」と話しかけ、本人の意向を伺うように対応している。	/	/
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活に支障のない範囲で就寝し、起床時は個別にて対応している。	/	/
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など、更衣する時の着衣の選択の他、個別に使いやすい化粧品を使用している。	/	/
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら他の利用者との食事をしている他、下膳や食器拭きなどの家事援助を出来る範囲で参加頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>給食部の栄養士が、栄養のバランスを考えた献立を作成している。嗜好に合わせた飲み物を準備している他、食事量・水分量の記録を行なっている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>提携医療機関の歯科衛生士からのアドバイスの元、個別に行なっている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った排泄ケアを行っていく。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の原因を探り、その方に合った予防策を実践し、必要に応じて、医師に相談し、下剤を検討する。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴剤を使用するなどして、楽しい入浴を心がけている他、気が合う入居者同士も行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用してもらったり、「仏様にお参りして寝る」「本を読んで寝る」「テレビをみながら寝る」などのリズムや習慣の尊重。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを閲覧し、把握している。また、気になる事は、医師等に報告・相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割を大切にしている他、趣味(手芸等)の再現の場を提供している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には行なえていないが、定期的に外出レクとして外出の機会を設けている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの意向もあり、所持は行なっていない。必要に応じて預かり金にて対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、行なっていない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾り付けを行なっている。また、フロアや居室の温度管理については、利用者の様子をみながら随時、対応している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への自由な出入りと、自由に他の利用者の居室への訪問を勧めている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やソファ、テレビ等、使い慣れた物を、入居時などにお持ち頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所への手すりの設置の他、車いす用トイレの設置。また、生活上、支障のない範囲での貼り紙の設置。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所が、団地の入り口に位置しているが、現状では団地の方々との交流が皆無に等しい	地域の方に、ホームの事を知って頂き、交流を持てるようにする	当法人で発行しているフリーペーパーの中に事業所独自で作成した新聞や、行事の案内などを入れ、配布する。	12ヶ月
2	18	集団での外出レクリエーションは定期的に行なっているものの、個別での外出レクリエーションは、あまり出来ていない	個別での外出レクリエーションの機会を増やす	家族会や、毎月送付している「一言通信」などを通じて、ご家族様に協力を得ながら外出レクリエーションの機会を増やしていく	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。